報道関係者各位
プレスリリース

2026 年 11 月 12 日
カンロ株式会社

カンロ、自社工場のある地域に
カンロ飴やピュレグミなどを合計 8,640 個寄贈！
～糖を基盤として各地に根差した貢献活動を実施～

カンロ飴やピュレグミなどでおなじみのカンロ株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：村田哲也、以下、カンロ）は、2026 年 11 月、自社工場のある長野県朝日村（11 月 2 日）、山口県光市（11 月 9 日）、長野県松本市（11 月 10 日）にカンロ商品寄贈式を実施いたしました。創業 80 周年の 1992 年より記念事業として、工場のある 3 拠点（山口県光市、長野県松本市、長野県朝日村）に、「糖に対する正しい知識の普及」と「カンロにゆかりのある地域への貢献、ブランド価値の向上」を目的にカンロ商品を寄贈しており、毎年多くの方に喜んでいただいています。事業の中核となる強みである“糖”についての正しい情報を発信し、糖を基盤にお客様のニーズや課題にソリューションを提供することで、社会貢献することを目指しています。

35 回目となる今年は、カンロ飴やピュレグミなど 8,640 個を寄贈。各自治体を通じて保育園や幼稚園、小学校、児童福祉施設、高齢者施設、福祉施設、障がい者支援施設など計 181 か所に届けられます。







2026 年度の寄贈式の様子
朝日村（左）、光市(中央)、 松本市(右)

2 日は、花村正門・朝日工場長が朝日村役場を訪れ、カンロ飴やピュレグミなど 1,728 個を寄贈しました。朝日工場では新設した翌年の 2011 年から毎年寄贈を行っており、村長の小林弘幸様は「朝日工場で作られているグミを通じて、一緒に朝日村のさらなる活性化につながる取り組みをしていきたい」と述べました。現在、増築中の工場（2027 年 7 月稼働予定）の話題や最近のキャンディ市場について対話を交わし、花村工場長は「朝日村でカンロのグミが作られていることをより一層周知し、“グミの朝日村”を全国に知ってもらえたら嬉しい」と語りました。

9 日は、光市役所にて光市への寄贈式が行われました。山本隆・ひかり工場長が出席し、カンロの商品 3,456 個を寄贈しました。光市長の芳岡統様は「自身の体の一部はカンロ飴でできていると言っても過言ではないほど、馴染み深い存在。先日の地域行事でもカンロ飴が配られるなど、光市民にとっても身近で当たり前の存在となっている。今後もカンロ飴をはじめ、カンロのキャンディを大切にしていきたい」と述べました。山本工場長は「より多くの方々にカンロの商品を届け、喜んでいただきたいという想いから、今年も商品寄贈を実施しました。カンロの商品をみなさまに楽しみながら味わっていただき、思い出に残るものとなれば嬉しい」と語りました。

10 日は、藤本敬二・松本工場長が松本市役所を訪れ、カンロの商品 3,456 個を寄贈しました。松本市の伊佐治裕子副市長は「長年にわたり松本市に工場を構え、地域に根ざしたものづくりを続けていただいていることに感謝しています。また、四半世紀以上にわたりキャンディの寄贈を継続していただいていることも大変ありがたく、多くの皆さんに喜んでいただけるものと思う」と述べました。藤本工場長は「私たちが愛情を込めてつくったキャンディを、より多くの方に楽しんでいただけたら嬉しい。キャンディは小さなものですが、気持ちの切り替えや自分へのご褒美など、さまざまな場面で楽しんでいただけるとうれしく思います」と語りました。

■カンロ工場がある地域に糖の価値を普及し、地域との結びつきを強化

≪食育及び食の安全推進への取り組み≫

カンロは、生産拠点を置く地域で、住民の健康増進や食育及び食の安全推進を目的に、地元の子どもたちの工場見学の受け入れや食育講座の開催をするなど様々な取り組みを行いながら地域とのつながりを深め、「糖に対する正しい知識の普及」に取り組んでいます。

■長野県での地域活性化や食育及び食の安全推進への取り組み

長野県は内陸性気候で湿度が低い点がキャンディの生産に適していることから、カンロ商品の約半分が信州で生産されています。松本工場では健康のど飴やピュレグミ、朝日工場ではカンデミーナグミやグミッツェルを生産しており、1 日あたりの生産量は飴がおよそ 17ｔ（松本工場）、グミがおよそ 34ｔ（松本工場・朝日工場）です。

カンロは、1959 年に長野県に拠点を構えて以来、「松本あめ市」への参加や地元の子どもたちの工場見学の受け入れなどを通じて地域とのつながりを深め、地域住民の健康増進や食育及び食の安全推進を目的に「糖に対する正しい知識の普及」に取り組んでいます。また、2026 年 2 月よりプロサッカーチーム・松本山雅フットボールクラブを運営する株式会社松本山雅とオフィシャルパートナー契約を締結。2026 年 10 月 25 日（日）には長野県内で初の「カンロスペシャルマッチ 2026」を開催するなど、食育やスポーツ支援など、多角的なアプローチで地域の健康増進と活性化に取り組んでいます。



2026 年「松本あめ市」の様子



カンロスペシャルマッチ 2026
©2011 YAMAGA

■山口県での取り組み

カンロは 1912 年に山口県光市で創業しました。「光まつり」への協賛・ブース出展をはじめ、地域住民の健康増進や食育及び食の安全推進を目的に、地元の子どもたちの工場見学の受け入れや食育講座など様々な取り組みを行いながら地域とのつながりを深め、「糖に対する正しい知識の普及」に取り組んでいます。



ひかり工場内の記念資料館
「CANDY PARK ヒトツブノヒカリ」

また、光市とレノファ山口 FC は地域の活性化や住みよいまちづくりを推進するため、2017 年より「オール山口 Ｊリーグで地方創生、まちづくりパートナーシップ包括連携」に関する協定を締結しており、現在カンロは「オフィシャルプレミアムパートナー」として活動しています。「糖に対する理解ある環境」を作ることを目標のひとつとするカンロが参画することで、光市の将来を担う子どもたち「光っ子」および、地域住民の健康増進、食育及び食の安全の推進を共通の目的とし、公民連携イベントを開催しています。



2026 年「光まつり」の様子



カンロ×レノファ山口 FC「カンロ冠マッチ」開催
©RENOFA YAMAGUCHI FC

2025 年には、カンロ飴発売 70 周年を記念した光市との地域連携プロジェクト “カンロ飴食堂のまち ひかり”をスタートしました。創業の地である光市への感謝を込めて、レシピサイト「カンロ飴食堂」をリアルに展開する地域連携事業です。2026 年 3 月より順次、山口県光市内の飲食店など全 19 事業者で、光市の地元食材とカンロ飴を組み合わせた特別メニューを開発・提供し、光市の観光誘客への貢献を目指しています。その他、カンロ飴が光市のふるさと納税の返礼品として提供するなど、地域に根付いた様々な取り組みを行っています。



■カンロ展開ブランド







■カンロ会社概要

社名　　：　カンロ株式会社
代表　　：　代表取締役社長　村田　哲也
所在地　：　東京都新宿区西新宿 3 丁目 20 番 2 号
　　東京オペラシティビル 37 階
創業　　：　1912 年(大正元年)11 月 10 日
事業内容：　菓子、食品の製造および販売
上場市場：　東証スタンダード市場（証券コード 2216）
URL　　：　コーポレートサイト　https://www.kanro.co.jp/
　　KanroPOCKeT　https://kanro.jp/



当社は 1912 年の創業以来、社名になっている「カンロ飴」を始め、菓子食品業界で初ののど飴となる「健康のど飴」、ミルクフレーバーキャンディ市場売上 No.1 ブランド※「金のミルク」、大人向けグミの先駆けである「ピュレグミ」など、生活者の皆さまから愛される商品を創り続け、成長してまいりました。直営店「ヒトツブカンロ」では、「ヒトからヒトへ　つながる　ヒトツブ」をコンセプトにキャンディの魅力を発信しております。

2025 年 2 月、「中期経営計画 2030」を策定し、新たに「Kanro Vision 2.0」を定めました。「Kanro Vision 2.0」は、企業パーパス「Sweeten the Future　心がひとつぶ、大きくなる。」の下、ビジョン「Sweet な瞬間を創り続けることで人々と社会に笑顔を。」と 4 つのバリュー「Sweet　な瞬間を創造する」「事業基盤を変革する」「未来へ紡ぐ」「創発的な組織の更なる進化」からなり、今後の当社の進む方向性を示したものです。

国内グミ事業を中心に更なる成長を実現するとともに、持続的成長のための事業領域拡大・ビジネスモデル拡張を進め、事業を通じて社会課題の解決に寄与しながら、企業価値を向上させることで、人と社会の持続的な未来に貢献してまいります。

※株式会社インテージＳＲＩ＋ ミルクフレーバーキャンディ市場 2025 年 9 月～2026 年 8 月累計販売金額シリーズランキング

■パーパス「Sweeten the Future　～心がひとつぶ、大きくなる。～」

カンロは、2022 年、企業パーパス「Sweeten the Future　～心がひとつぶ、大きくなる。～」を定めました。変化が激しく、先行きが不透明・不確実な時代の中、カンロがこれまで歩んできた道程を確認の上、自分たちの未来への想いを言語化したものです。糖から未来をつくり、糖の力を引き出す事に挑み続けてきたカンロが企業活動の中で培った技術をさらに進化させることで、「心がひとつぶ、大きくなる。」瞬間を積み重ねて人と社会の持続可能な未来に貢献してまいります。